

## 2-4. 地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組みの企画・開催

取組み方針①：市民、地権者、若手の会及び NB ミーティングに対して普天間飛行場跡地利用について学習する機会を提供し、まちづくり人材育成に繋げるためにまちづくり講座を実施した。

### (1) まちづくり講座の開催

#### 1) 開催概要

##### ①目的

跡地利用において大規模公園を想定し、これまでの若手の会等での検討においてもこの大規模公園を始めとする公共空間を、民間と共に有効活用していきたいという考え方が示されてきた。

令和3年度のまちづくり座談会において、跡地利用でこうした公共空間の利活用を実現するためには、跡地のまちびらき後に取組み始めるのではなく、「今から」公共空間を活用しようという文化・市民意識を周辺市街地において作ることが大事であると示唆を頂いた。

そこで、今年度のまちづくり講座のミッションを以下の2つに設定する。

i) 公共空間を活用する文化を周辺市街地で醸成するきっかけを作る。

ii) 公共空間の利活用にあたって関係者・市民と連携・協力しながら進められるよう周知を図る。

##### ②テーマ

▶ 今年度の若手の会、NB ミーティングの検討テーマを踏まえ、テーマを「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」と設定する。

##### ③開催方法及びスケジュール、講座内容

今年度は「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」を共通のテーマに、全2回実施し、一般市民、若手の会及び NB ミーティングに対する公開型の会場開催と、Youtube 動画サイトによる一般公開を行った。

	開催日	タイトル	プログラム
第1回	1月21日 (土)	まちあるき in ぎのわん	・主旨説明 ・跡地における公共空間と若手の会の考えの紹介 ・公共空間の活用事例紹介 ・説明→まちあるき ・グループワーキング ー公園・公共空間の活用方法ー ・発表・とりまとめ

開催日		タイトル	プログラム
第2回	2月17日 (金)	フリースペー スを活用した 賑わいの場づ くり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶と主旨説明</li> <li>・前回の振り返り</li> <li>・まちづくりの進め方</li> <li>・スモールスタートで始めるまちづくりの講義 講師：宋<sup>ソン</sup>俊<sup>ジュン</sup>煥<sup>ファン</sup>氏 (山口大学 大学院創成科学研究科 准教授)</li> <li>・意見交換・ディスカッション</li> <li>・参加者からの質疑応答</li> <li>・閉会</li> </ul>

## 2) 各会の内容・要旨

### ①第1回まちづくり講座

- 開催日時：令和5年1月21日（土）09：00～12：00
- テーマ：基地跡地利用をどうするか
- 公開方法：1月21日（土）午前9時～午後12時 @ 伊佐公民館
- ダイジェスト紹介：YouTube 配信（後日）[第2回と合わせて]  
・3月9日（木）～YouTube に、動画を公開。
- 会場参加者：22名

#### a) 出演者

##### 【プレゼンター】

- 若手の会 宮城 武氏

##### 【グラフィックレコーダー】

- ちょこ(室伏 長子)

きくひと、かくひと、はなすひと。いっしょに何かをつくるひと。描く通訳者。グラフィックレコーディングやパーソナルインタビューなどのほか、企画・ワークショップ、研修講師なども行っている。現在は、オンラインでも活動の幅を広げている。

【講座の主なポイント】

①基地跡地利用をどうするか

緑の中のまちづくりを考えている。公園、広場、空間を作りたい。できる前から、日頃空間をどう使っているか。どのように使いたいか考える。

②緑の中にまちをつくる

まちから緑をではなく、“緑の中にまちをつくる”取組を（シンガポールで進められている）。高い水準にしていきたい、周辺の緑も中にある普天間公園でも楽しめるまちづくりを考えている。

③ネットワーク型のまちづくり

中だけでなく、周辺も考えていくためのまちあるきを行う。全国的に外の空間(公共空間)を楽しくしていく。

b) プログラム

【タイムテーブル】

- 09:00～09:05 開会、まちづくり講座の主旨説明
- 09:05～09:10 跡地における公共空間と若手の会の考え方について紹介
- 09:10～09:20 公共空間の活用事例紹介
- 09:20～10:35 ルート説明・まちあるき
- 10:35～11:15 グループワーク
- 11:15～11:45 グループ発表・とりまとめ(30分)
- 11:45～11:50 質疑応答・閉会

c) 配信案内チラシ

若手の会、NBミーティング、大学生（琉球大学、沖縄国際大学）、宜野湾市の職員や関係機関等へ周知を行った。

令和4年度 普天間飛行場跡地利用を考えるまちづくり講座(2回連続講座)

参加無料

Vol.1

普天間飛行場周辺市街地との連携による  
価値の高いまちづくりのすすめ

伊佐区

まちあるき inぎのわん

普天間飛行場は全面返還が合意されており、跡地では活用できる自然・歴史を公園として確保するみどりの中のまちづくりの実現に向けて検討を進めています。

「子どもが遊べる場がほしい」「大人もくつろげる場所があるといいな」など  
普天間飛行場周辺の公園や公共空間を活用した、「今からできること」について考えてみませんか？

2023年

日時 1/21 土 9:00-12:00  
(8:30から受付開始)

会場 伊佐区自治会事務所

募集人数 20名 注)先着順受付になります。  
注)中学生以下のご参加は保護者同伴となります。

申込方法 下記電話番号または二次元コードからも可能です。

公共空間の活用事例紹介:30分程度  
まちあるき:1時間程度  
グループワーク:1時間程度

【位置図】  
利原市営住宅 伊佐区自治会事務所 伊佐郵便局 法務局 南宜野湾住宅 国道58号 宜野湾ハイパス

※申込み期限:1/17(火)まで。  
注)雨天決行。しかし、天候等で内容の変更もあります。  
注)申込方法等の不透明点は、電話にてお問合せください。

QRコード

Vol.2

【第2回 まちづくり講座 ご案内】  
フリースペースを活用した  
賑わいの場づくり

日時 2/17(金) 18:00-20:00  
(17:30から受付開始)

会場 伊佐区自治会事務所

内容 【講演】公共空間を活用した場づくりの先進事例

講師:宋 俊煥氏  
山口大学大学院創成科学研究科  
建設環境系専攻 准教授

●第1回ワーキング結果報告  
●講師とディスカッション

参加無料

みんなで  
まちをあるいて  
フクワクを  
かんがえよう!

通りを活用して、みんなが  
楽しめることができた  
いいな

写真:ふんしんせせらぎ通り

主催 宜野湾市 まち未来課  
事務局 昭和株式会社 担当:河村・池村  
TEL:098-876-5107 FAX:098-876-5131

第1回案内チラシ



d) まちづくり講座要旨

普天間飛行場周辺市街地との連携による  
価値の高いまちづくりのすすめ

**まちあるき**  
inぎのわん 伊佐区

こんな場所を  
こんなことしたい  
グループ発表

あるき... 又了  
伊佐区  
**まちあるき**

公共空間  
まち活用  
事例紹介

どんな場所を  
どんなことが  
したいかな?

記録の中の  
まちづくり  
公園  
空きスペース

NEXT  
2月!

今日の流れ

宜野湾市 若手の会  
ながやま さんから

河村 さん

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 伊佐区 2023/1/21(土) 9:00~12:00 伊佐区 自治会事務所 2023 1/21 0

【跡地における公共空間と若手の会の考え方について紹介】

説明：普天間飛行場の跡地を考える若手の会 宮城武氏

内容：これまでの若手の会の取組について紹介を行った。

普天間飛行場周辺市街地との連携による  
価値の高いまちづくりのすすめ

**まちあるき**  
inぎのわん 伊佐区

若手の会  
どんなまちにしたいか?  
まちが緑を、緑が  
“緑の中にまちをつくる”  
取り組みを。 (シンガポールを参考  
している)  
高い水準にしている!! “100%9-10!!”  
周辺の緑も 中にある普天間公園をも  
楽しめるまちづくりと考えている。“緑の中の  
“ネットワーク型のまちづくり” まちづくり

全国的に  
外の空間を楽しくして  
(公共空間) 動きがある。  
行ったのしい場所に

いまだにできる  
まち活用も  
(公共空間)

中だけでなく、周辺も考えていたための  
まちあるき  
今日は  
こちらをっていきます!

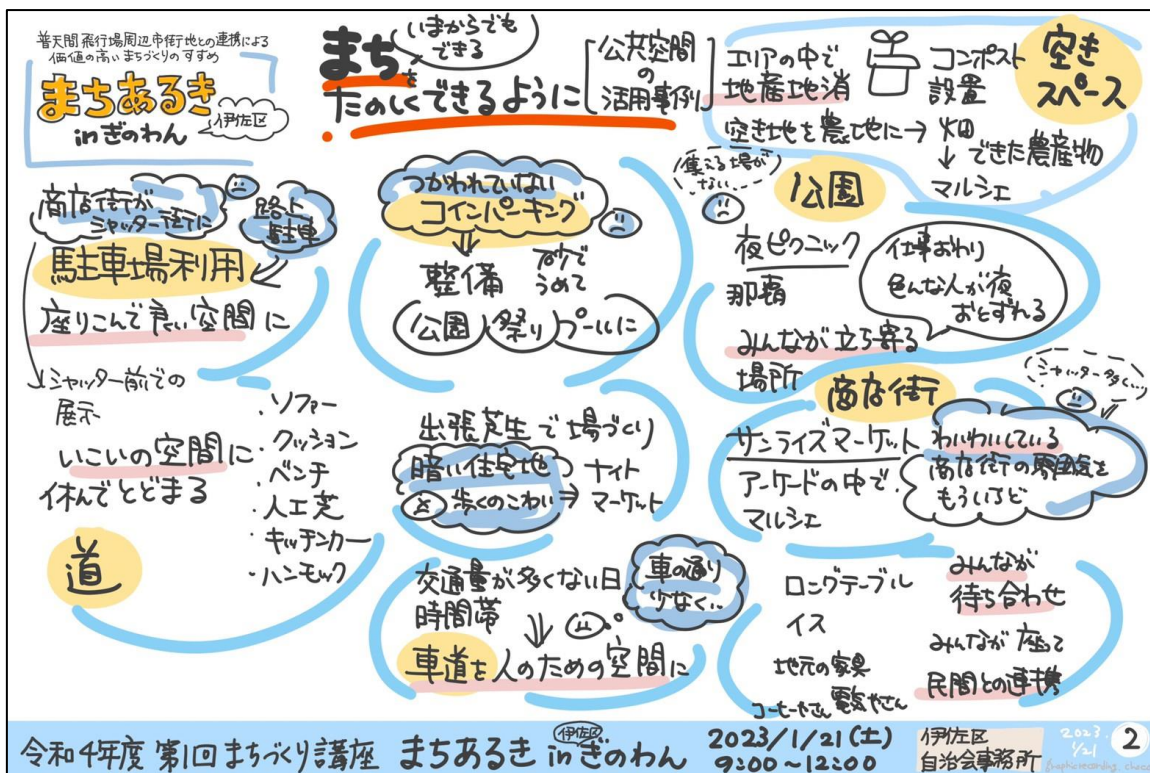
基地 跡地利用を  
どうするか?  
“緑の中のまちづくり”  
を考えている  
↓  
公園・広場・空間が  
つくられる  
“利用してほしい!”

できる前から  
日頃 空間をどう  
つかっているか?  
どのように使いたいか  
考えていきたい!

2回開催  
1月 まちあるき  
×イン  
2月 専門の先生を  
よんで

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 伊佐区 2023/1/21(土) 9:00~12:00 伊佐区 自治会事務所 2023 1/21 1

【公共空間の活用事例紹介】



# 公共空間の活用事例紹介

1. 『Park(ing)Day2020竹原』
2. TOKIwaIKOT(ときわいこつと)
3. 中央町活性化の取り組み



# 1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市

## Park(ing)Day2020竹原 実施概要

日時：2020年9月18日（金）10:00～21:00  
 （当日雨天により16:00開始）  
 （追加開催19日～20日）

場所：竹原駅前あいふる通り

主催：竹原市

目的：竹原駅前あいふる通りにおいて道路空間活用の一  
 例となるPark(ing)Dayを開催することで、地域  
 住民が集まり、居心地の良い空間を過ごすこと  
 により、公共空間の新たな魅力を感じてもらう。



### Park(ing)Dayとは

2005年に米国・サンフランシスコで始まった、路上パーキングスペースを**人のための空間に変える**取り組み。毎年9月第3金曜日に実施され、世界中のムーブメントになっている。



# 1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市

## Aチーム 企画コンセプト 『歩いて楽しむ今昔ストリート』 実施状況



駅から見える  
景観の変化



停車帯や駐輪場を  
活用した休憩・滞留  
スペース



玄関口から見える  
ストリートへの  
誘導、認知(看板)

非営業店舗の  
シャッター前での展示



実施コスト  
合計＝¥108,444.-



1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市

**Bチーム 企画コンセプト 『駅前公園はじめました!』 実施状況**

**<昼バージョン>**  
 子どもたちが公園のように集い、砂場やマンガ、ハンモックなどのアクティビティを配置し、遊び倒すことができる場として利用してもらう。

1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市

**Bチーム 企画コンセプト 『駅前公園はじめました!』 実施状況**

**<夜バージョン>**  
 竹原らしさで感じる竹灯りで幻想的な空間の演出、高さの異なる場を配置し、大人たちが集い、飲食やくつろぎの場として利用してもらう。

実施コスト(昼夜)  
 合計 = ¥259,662.-



## 2. TOKIwaIKOT(ときわいこつ) 山口県宇部市

- 2021年11月に開催
- 車中心の道路から人中心のウォークアブルな空間への転換を目指し、社会実験的に常盤通りの一部を活用し、歩いて楽しい様々な体験ができる空間を用意した。



## 2. TOKIwaIKOT(ときわいこつ) 山口県宇部市



- 側道にキッチンカー、建物側に出店テントを設ける
- 歩道には来場者が飲食でき、滞留するスペースを設けたいという考えから、トキスマ等で利用していた中古パレットを再利用し、立ち飲みカウンターが作られた。

### 3. 中央町の活性化の取り組み 山口県宇部市





【まちあるき】

まちあるきのルート



A) 伊佐交差点



B) 伊佐交差点-2



C) ふんしんポケットパーク



D) フンシンガー付近



E) フンシンガー



F) ふんしん川







G) ふんしんせせらぎ通り (入口)



H) ふんしんせせらぎ通り (シーサー像)



I) ふんしんせせらぎ通り (シーサー像付近)



J) ふんしんせせらぎ通り (さわふじの木)



K) ふんしんせせらぎ通り (水辺で遊ぶ子供たち)



L) ふんしんせせらぎ通り (川に生息するエビ)







M) 伊佐第二児童公園



N) 伊佐第二児童公園(広場)



O) 伊佐第二児童公園(遊具で遊ぶ子供たち)



P) 伊佐第二児童公園(木々の様子)



Q) 自動車整備工場で飼育されているウサギ



R) 自動車整備工場で飼育されているウサギ-2





■第1グループ(棚原さんチーム)

ふんしんせせらぎ通り

- ▶ 四季折々でイベントをする。
  - 夏→花火大会、夕涼み会など
  - 冬→クリスマスイベント、イルミネーションなど
- ▶ 子どもたちと水が触れ合う場（湧き水の大切さを学ぶ）
  - 子供たちに、魚やエビなどの生き物とのふれあう場の創出や、湧水（カー）の大切さを知らせてもらう。
- ▶ ネイチャーゲーム
  - 親子でゆっくりと通りを歩き、自然に生息する花、木、虫などを調べながら楽しむ。

伊佐児童公園

- ▶ 公園でイベントやりたい
  - グランドゴルフ大会などのイベントを開催する。近隣の住民も参加できるイベント（自治会活動）を開催することで自治会加入につなげたら良い。

第1グループ  
せせらぎ通り  
公園  
四季の活用  
子どもたちと自然のかかわり  
花火  
夕涼み  
イルミネーション  
にぎわい

自治会  
グランドゴルフ  
自然を上手に楽しむゲーム  
ネイチャーガイド  
住んでいても知らない場所があることを知らせよう!!

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 2023/1/21(土) 9:00~12:00 伊佐区 自治会事務所 2023/1/3

## ■第2グループ（安良城さんグループ）

### ふんしんせせらぎ通り

➤ 平成4年に手づくり郷土賞受賞している通りである。ふんしんせせらぎ通りをアピールし、もっと観光客を呼び込みたい。

→ 沖縄の郷土料理を作り、観光客にふるまいPRする。

➤ フリーマーケット、マルシェの開催。

➤ プチパーク

→ 小さな公園、子どもたちが休憩できる場を設置する。

➤ オオゴマダラが集まる植物を植え、オオゴマダラを育てて蝶の舞うまちにしたい。

➤ 再整備してより活性化。



オオゴマダラ

### 伊佐児童公園

➤ 子どもたちが楽しめる運動会の開催（周辺住民を集めてイベントなど）

➤ 一輪車などの遊びをしても、安全な仕組みが必要。

➤ 小さい子どもたちのいるお宅間での洋服シェア（フリーマーケット）

➤ 青空会議の開催

## ■第3グループ

### 駐車場

- 広い敷地でイベントを実施。まちのにぎわいを作りたい。

### ふんしんせせらぎ通り

- 食べ歩きスペース、移動型カフェ
- 魚のつかみ取り

### 伊佐児童公園

- 空きスペースを活用し、児童キャンプ体験  
→防災・自治につながる

### 軽便鉄道のあとを地域のPRに活用

### ポケットパーク

- ヤギや犬などの生き物を飼育  
→子どもも楽しめる。

馬車道

食べ歩き

広い敷地で

道路

にぎわいをつくらないか?

公園

児童キャンプ体験

防災→自治につなげていく

ポケットパーク

生き物いても◎

軽便鉄道のあとをPRに!

伊佐のシンボル!!

# 第3グループ

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 伊佐区 2023/1/21(土) 9:00~12:00 伊佐区 自治会事務所 2023/1/21 5



## ②第2回まちづくり講座

- 開催日時：令和5年2月17日（金）18：00～20：00
- テーマ：フリースペースを活用した賑わいの場づくり
- 公開方法：2月17日（金）午後6時～午後8時 @ 伊佐公民館  
ダイジェスト紹介：YouTube 配信・3月9日（木）～YouTube に、動画を公開。
- 配信会場：伊佐公民館
- 会場参加者：21名

### a) 出演者

#### 【講師】

#### ➤宋 俊煥（ソン ジュンファン）

専門はアーバンデザイン・エリアマネジメント・低未利用地活用・人口減少都市の都市(地域)再生。1981年生まれ(韓国釜山)、2013年東京大学大学院博士課程修了(環境学博士)。特別研究員(JSPS・PD)・東京大学大学院特任研究員を経て。2015年4月から山口大学大学院理工学研究科助教。2019年4月から山口大学大学院創成科学研究科建築学コース准教授(工学部感性デザイン工学科担当)。実践研究活動として「若者クリエイティブコンテナ(宇部)」代表、まちづくり会社「にぎわい宇部」非常勤取締役、広島市カミハチキテル・ディレクター、竹原市都市デザインアドバイザー等。

#### 【ナビゲーター】

#### ➤ 堀江 裕典（昭和株式会社 開発事業部 営業開発室 室長）

#### 【講座の主なポイント】

##### ①前回の振り返り

第1回の結果、どこでどんな取組をすると良いというアイデアや意見が出たかなどを報告。

##### ②まちづくりの進め方

昨年度までの市民向け講座を通して、まちづくり活動を実践することの重要性が明らかとなったことを説明。大きなビジョンと小さなアクションの関係性を示唆。

##### ③スモールスタートで始めるまちづくり

YCCUの取組の事例を中心に、「小さな連携で小さく動き始める」時のポイントやその価値など。

## b) プログラム

### 【タイムテーブル】

18:00～18:05	挨拶と主旨説明
18:05～18:15	前回の振り返り
18:15～18:25	まちづくりの進め方
18:25～18:55	スモールスタートで始めるまちづくりの講義
18:55～19:15	意見交換・ディスカッション
19:15～19:45	参加者からの質疑応答
19:45～19:50	閉会

c) 配信案内チラシ

若手の会、NBミーティング、大学生（琉球大学、沖縄国際大学）、また、宜野湾市の職員や関係機関等へ周知を行った。

令和4年度 普天間飛行場跡地利用を考えるまちづくり講座(2回連続講座)

普天間飛行場周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ



普天間飛行場は全面返還が合意されており、跡地では活用できる自然・歴史を公園として確保する「みどりの中のまちづくり」の実現に向けて検討を進めています。

第1回は、伊佐地区周辺のまちを歩き、公園や公共空間を活用した「今からできること」について話し合いを行いました。

第2回では「若者クリエイティブコンテナ（宇部）」代表でもあり、居心地が良いまちなかをつくる活動を行なっている講師をお招きし、公共空間を活用した事例をご紹介します。

【講演】公共空間を活用した場づくりの先進事例

【経歴】

山口大学 大学院創成科学研究科  
工学系学域 感性デザイン分野  
建築学専攻 准教授



【講師】  
宋 俊煥氏  
(そん・じゅんかん)

専門はアーバンデザイン・エリアマネジメント・低未利用地活用など。2016年頃より山口県宇部市の中心市街地において公共空間を活用した地域活性化に携わり、現在、「若者クリエイティブコンテナ（宇部）」代表等を務める。さらに他都市においても公共空間を活用した数多くのプロジェクトに携わる。



【ナビゲーター】  
堀江 佑典氏  
(ほりえ・ゆうすけ)  
昭和株式会社 開発事業部  
営業開発室 室長

TOKIwaIKOT(ときわいこつ) :  
山口県宇部市の常盤通りの一部を「居心地がよく歩きたくなる」まちなかをつくるまちづくりに取組む。



出展:TOKIwaIKOT HP

日時 2023 2.17 (金) **参加無料**

会場 伊佐区自治会事務所

時間 18:00~20:00 (受付17:30より開始)

定員 30名 (注)先着順受け付けになります。

申込方法 下記電話番号または二次元コードからも可能です。※申込期限:2月13日(月)まで



申込QRコード



オンラインでも配信します



以下のURL又はQRコードからご視聴いただけます。  
アプリケーション「Zoom」をダウンロードし、下記リンク先または右記のQRコードに各自で所有するパソコン、スマートフォンでアクセスをお願いします。  
接続に関するお問い合わせは、事務局までご連絡ください。



オンライン視聴用

URL : <https://bit.ly/2Vul311>

主催 宜野湾市 まち未来課

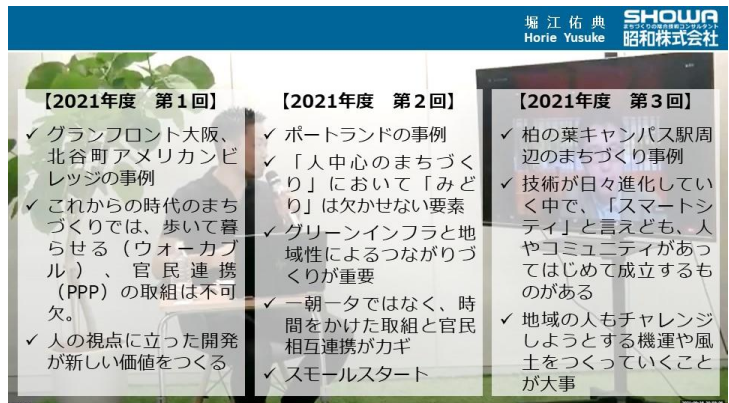
事務局 昭和株式会社 担当:河村・池村  
TEL:098-876-5107 FAX:098-876-5131

第2回案内チラシ（現在、視聴期間は終了しています）

## d) まちづくり講座要旨

### 【まちづくりの進め方の説明】

- これまでのまちづくり講座の振り返り
- 2020年は2回開催し、1回目がグランフロント大阪、北谷町アメリカンビレッジの事例の紹介、2回目がポートランドの紹介を行った。
- 2021年は柏の葉キャンパスタウンの事例を紹介し、コミュニティが全ての基盤である。地区の住民がチャレンジできるという基盤が作っていけると良いという主旨だった。

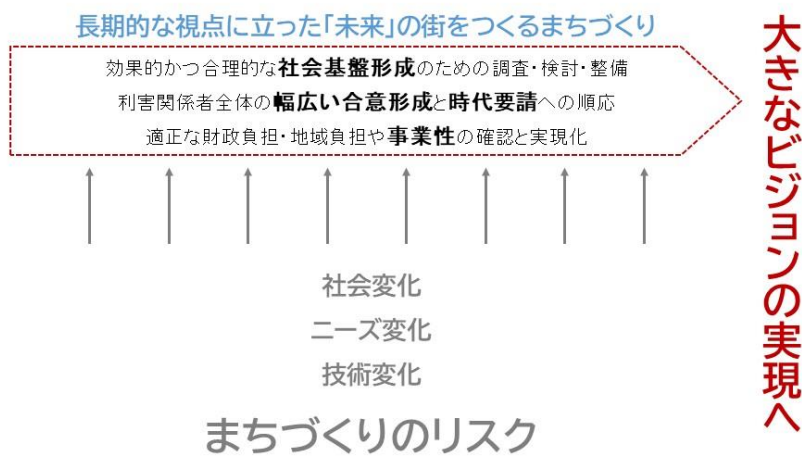


今から出来ることがあるのではないかと  
（「まちづくり」は既に始まっている）

➤



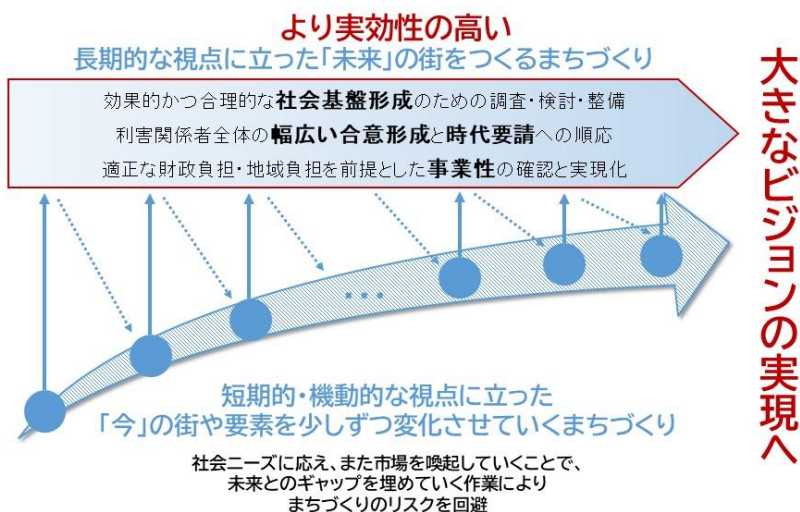
### 「長期的なまちづくり」と「機動的なまちづくり」



- 長期的なまちづくりと機動的なまちづくりが重要である。
- 長期的な視点に立った「未来」のまちをつくるまちづくりを進める先に大きなビジョンの実現が見えてくる。



## 「長期的なまちづくり」と「機動的なまちづくり」

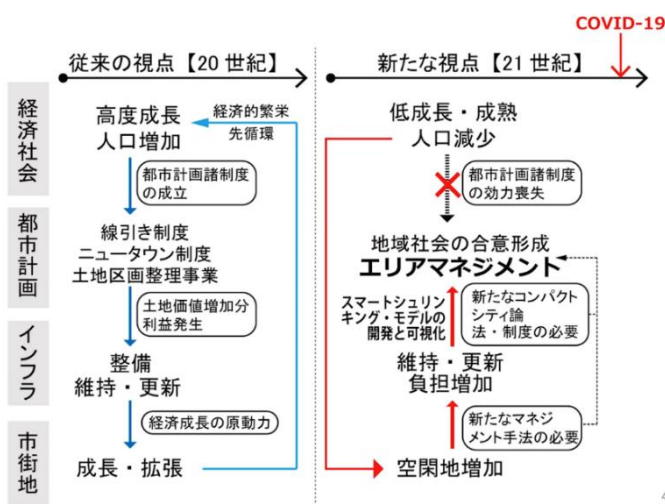


- ▶ 未来のまちを構想している間にも社会変化やニーズ変化、技術変化があり、状況は変わってしまう。
- ▶ そこでどのようにより実効性の高いまちを作っていくのかという時に必要な考え方としては、短期的・機動的な視点に立って「今」のまちや要素を少しずつ変化させていくまちづくりが求められる。小さい取組の積み重ねが重要である。

### 【スモールスタートで始めるまちづくり】

- ▶ 都市の政策の考え方と地域主体醸成の重要性について。沖縄は人口が増加しているが、全国的には人口が減少している。20世紀の人口が増加していた時代は新たなまちを整備して、人口が増え、そこから収益が生まれまた整備・維持・更新が図れるという時代であった。しかし、人口が減少している時代では、空家・空地等の空閑地が増加してしまった。そうすると、公共空間の維持・管理の負担が増加してしまっている。

### 近年、都市政策の考え方と地域主体醸成の重要性



そこで、都市を縮小していこうという話が出てきてい

出典：宋氏資料より抜粋

る。地域の方が合意形成をしながら進めていかないといけないことが増えてきている。そこで地域の主体性を育ててまちのマネジメントを行っていかないといけない。

- ▶ 空間デザインと政策・制度と並行して、短い期間でできる機動的なまちづくりの必要性、マネ

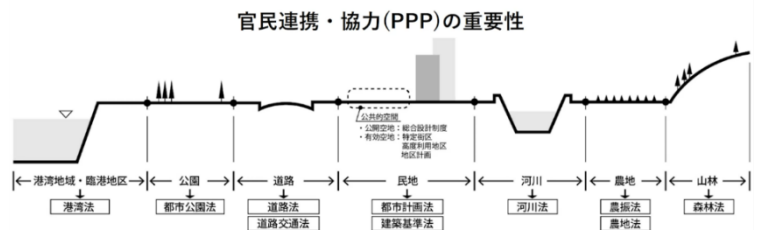
ジメント手法が必要になっている。

- 公共空間とは、行政が所有し管理する空間という考えがこれまで一般的であった。それが、個人所有のものではないが誰でも利用可能な空間として自由空間をパブリックスペースとする考え方が出てきた。さらに、公共空間には私的な公的空間も含まれてくるように変化してきている。

### 公共空間とは、

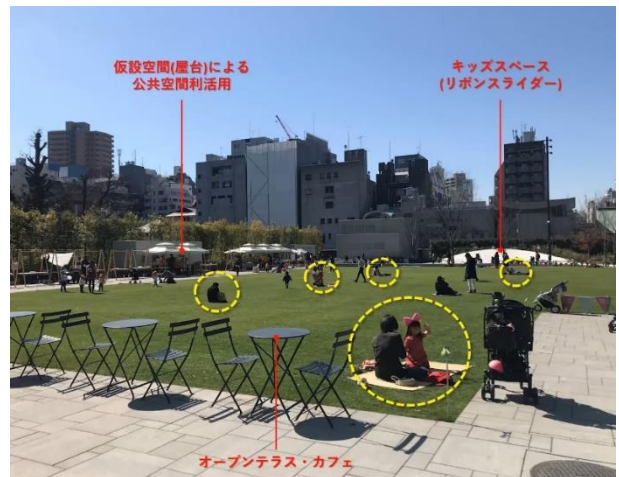
- ①行政の管轄(Governance Space)：所有と管理の観点
- ②自由空間(Public Space)：個人所有のものではなく、だれでも利用可能な空間  
公平性/公開性の観点
- ③都市基盤(Infrastructure)：都市機能を支持する役割

- ➡ 公共空間の「量的」拡張から「質的」向上へ
- ➡ 私的空間の公的空間化(Open Space)：公開空地 / 空地 等



出典：宋氏資料より抜粋

- 港湾、公園、道路、民地、河川、農地、山林等それぞれの法律によって管理する方がわかれている。これらのボーダーを気にせず一体的に自由に使うことが求められている。
- 1つの先進事例として、東京の南池袋公園を取り上げる。南池袋公園の写真を見てもなにか普通の公園と違うか。芝生がとてもきれいだ。なぜこの公園だけがこんな高質の芝生に出来るのか。ここでたくさんのアクティビティが生まれている。なぜこのようなことが出来るのかというと、今までは公園は都市公園法に基づいて行政が維持・管理を行ってきた。



出典：宋氏資料より抜粋

- 南池袋公園では、「南池袋公園をよくする会」という団体が公園を管理している。この会には行政を始め植栽管理会社やイベント運営会社、町会などが入っている。その会の中で公園を管理するお金も生み出して、公園を良くするための空間づくりを行っている。



宇部市にある商店街がシャッター街になっている。エリアの半分くらいが駐車場となっており中々使われていない。1989年の時期には商店街に賑わいもあった。昔のように戻せないけれど、人口減少の時代にどのようなことができるのかという考えで始まったのが若者クリエイティブコンテナの取組である。上から見ると駐車場だらけ。土地所有者も建替えをやるとうということに中々



整備前の現状



空き家をポケットパークへ



空き家をアジト(サードプレイス)へ

出典：宋氏資料より抜粋

ならない。一方でこういうスペースを使いたいという市民は一定数いた。

- そこで行政が土地を借りて、使えるように変えていった。
- まずは、危ない空家等を撤去しようというところから始めた。全体整備するのに3,000万くらいかかった。トイレと倉庫、カフェ、芝生広場を作った。
- 山口大学には工学部や医学部があり、他にもいくつか大学があった。しかし、若者があまりまちに来ないという現状があった。そこで、「若者」の目線から「まちなかをどのように再生していくか」を考え始めた。
- 拠点施設をつくるのが大事であると考えていた。拠点があると情報が集まる。人が集まる。それによって課題が集まり、その拠点で調整が出来る。
- 次のステップとして、出来上がった芝生広場をとりあえず使ってみようということを行った。つくることよりも、作ってからが大事である。作ったけれど中々使わないということがよく起きる。
- そうした中で、空いている公的空間を活用しようということで、カフェを作っても良いと手を挙げてくれた人がいた。その方は、「無いものに目を向けるのではなくあるものを活かしてまちを良くしていく」ということをおっしゃられる方で、こういう方がまちにいらっしゃることが大きい。さらに、宇部出身でイベントの企画開催等を行う方を巻き込んでいった。
- この方々とイベントを行っていった。最初は数回しかできなかったイベントが次第に月に何回か、週に何回か開くことができるようになっていった。

- ▶ 活動を見える化することが大事であった。イベントを実施することで人々が集まってきて、話し合うきっかけができてくる。応援者が増えてくる。そしてイベントのノウハウが蓄積されてくる。
- ▶ 行政の方とやぐらを作ったり、周りの方に周知しに行ったりと精力的に活動していった。
- ▶ こういった活動が蓄積されてくると、今度は活動を面的に広げていくことを考え始めた。芝生広場が商店街から見えづらい場所に位置していた。そこで、行政が空家があった場所を買い取り新たなポケットパークをつくり、商店街から芝生広場までをつなげていくよう考えてきた。
- ▶ 商店街と芝生の間の空家をギャラリーとして活用してくれる方が現れた。その方は将来的にカフェを作っていきたいということを考えていたので、芝生やコンテナ施設でギャラリーカフェ等ができたらどうなるかという社会実験を行っていった。
- ▶ まちなかイベントを実施するには保健所や警察、行政への申請等、やることがたくさんある。そこでまちなか実行委員会を作って、一括してみんなで取組んでいった。
- ▶ 芝生広場での活動において、出展料を徴収しそれを経費に充て入る。
- ▶ 芝生広場に電気がなく難しいところがあったので、芝生広場の中の市が持っている土地に電柱を立てた。
- ▶ そこから電気をとることで毎日明るくすることができるようになった。昨年はクリスマスイベントも実施することができた。
- ▶ 実行委員会の人たちは、メールではなくSNS でつながっている。それにより気軽にコミュニケーションができており重要なポイントだと考えている。
- ▶ 他の活動として、芝生があると色々な活動ができるということでまちの色々なところに芝生を持って行く出張芝生という取組も



活動を見える化する



電柱の設置

出典：宋氏資料より抜粋

行っている。宇部市内で歩行者天国の取組が行われていた。しかしここには滞在するスペースが無かった。そこで出張芝生を行い芝生スペースを作ることでそこに滞在した人の行動がこれまでと変わってきた。滞在する人の量が増え、経済効果も2、3倍に増加した。



2022年に行われたクリスマスイベント

- コロナ禍に道路占有を行いオープンカフェを開くイベントを行った。実際に道路占有ができるという制度ができてからオープンカフェを出そうというところまで非常に短期間でできた。これは実行委員会が組織されていたから、そこで話すことができたからである。
- まちなかを全て公園にしようという取組も行ってきた。常盤通の側道を公園にする取組を行っている。
- 今までには何かの取組を実施する時に、市長を始め学識経験者関係団体の偉い方々が検討して合意を図っていく必要があった。しかし、これからは市民がやりたいことを提案して、実践している人たちみんなでどのように作っていけば良いかを考えて行政側の設計に結びつけていくことが重要である。
- 行政がデザインして民間が利用・活用するというのでは中々利用されない。行政と民間、専門家が一緒にデザイン・マネジメントをしていくことでガバナンスができていく。

### 【意見交換・ディスカッション】

(堀江氏) 都市計画の背景がだいぶ変わったのでまちづくりへの向き合い方が変わってきた。まちづくりの主役は地域であり、体制を仕組み化することが大事だということが1つポイントだった。次に、あそこに行けば誰かに会えるよねという場所があることが、地域の安心感につながっている。人に出会える場所があるというのがまちづくりにとって重要な要素である。

学生だけが活動しているのではなく、地域の方飲食店をされている方が関わり、活動の多層性が生まれてくると、「あ、あそこで自分もできるのではないか」という思いが起こってくるのかなと思った。

3つ宋先生に伺いたい。1つ目が「みんなの思い」をどう可視化していくのか。2つ目が大学や学生と連携する秘訣は何か。3つ目が「ひとづくり（人のネットワークづくり）」の極意は何か。(宋氏) 1つ目は、最初から可視化することを考えすぎても難しい。少しずつ積み重ねていくことが大事。また、拠点があることがとても大事。

昨日、この地域のまちあるきを行ったが緑が多いと思った。緑の力はとても大きい。緑があることでコミュニティが生まれるということを感じている。緑が好きで清掃したい、管理したいという方が集まれる場所があるのではないか。

宇部ではたまたま行政が買い取った場所を芝生広場にしたが、最初は芝生エリアは移っていくのではないかという考えもあった。しかし、活動を続けていく中で芝生広場が集まるへそになっていった。

ふんしんせせらぎ通りを見させてもらったが、ここで人の名前が書かれている花壇があり、それぞれが管理しているということがとても大事な活動の見える化だと思う。

東久留米市の氷川台という自治会があるが、自治会の参加加入率が97%。それはなぜかという、住宅地の中に農園があり、農業をやりたいという住人がおり植物を育てている。なぜやっているか調査したところ、好きでやっており、ここに来る人同士の会話が生まれている。さらに、昼過ぎになるとその野菜を買いにくるお母さんがいて、コミュニケーションが生まれていた。こういったことが見える化だと思う。

次に、大学や学生と連携する秘訣について。

大学では座学だけでは学ぶことに限界があると感じている。そこで、学生を外に出させることをしている。それによって、1年目と3年目で学生は大きく成長している。学生が地域に出て怒られることもあるが、社会を学んでいる。

最近では学生同士のネットワークが広がっており、学科に依らずやりたい学生が参加できるようにしており、活動に参加する学生が増えている。こうした動きも学生発意だった。

地方ならではの特徴で人材が少ないというのがある。地方では人材が少なく、学生の提案力が高くとても有効である。社会ニーズの変化に早く対応できるのも学生である。大人は学生が考えたことを予算の中でどう実現できるかを考えている。

そこに行政のバックアップが必要。こういう大学の取組もリサーチフィーを行政から頂いて実施している。

地域で学生を育てていくという視点も必要である。

3つ目の質問として、地域で取組を進める上で担い手が重要である。ひとづくりの極意を教えて

頂きたい。チームも重要だと思った。

持続可能ということは、リターンが大事だと思う。ボランティアで続けてくれというのは無理がある。

宇部市でイベント企画をしている方は、イベントの中で、自分自身もビールを売っている。一生懸命人を集めようとする事で自分の売り上げも上がるというリターンがある。

そろばん勘定だけではまちは良くならないし、ロマンだけでもまちを良くする取組は実現できない。ロマンとそろばんの両方が必要。

#### e) 質疑応答

Q. アメリカのポートランドの話があった。世界一住みよいまちづくりという話があったが、その辺りを伺いたい。

(宋氏) ポートランドでは、ネイバーフッドアソシエーションと呼ばれる自治会組織が95 作られている。またこれらを束ねる7つの地域連合がある。日本の自治会とポートランドの自治会の違いは、日本では世帯ごとに入るが、ポートランドは1人1人誰でも入れるようになっている。

自治会の活動内容としては、地域の土地利用や交通計画に対して意見を出すことができる権限を持っている。行政の計画を作るときには必ず自治会に情報を公表して自治会で検討した結果を反映させなければいけない。こうした検討プロセスを50年以上行ってきた。

ポートランドで住みやすさを調査した時に、家から徒歩20分圏域に自転車道路、歩道、公共交通、健康食料品店、公園、小学校、商業サービス施設等があるかどうかで各エリアの住みやすさを評価した。この結果をWalk score .comというサイトで「歩いて暮らせるエリアかどうか」を地図上にヒートマップで公開している。そして、これが不動産価値と結びついている。行政では、全ての評価項目を満たしている地域、満たされていない項目がある地域を明らかにし、満たされていない項目がある地域ではそこを満たしていく取組を行うように計画した。なお、この計画の存在を住民に知っているか聞いたところその認知度は7割程度であった。

Q. まちあるきやワークショップを行った今回の結果は、宜野湾市や沖縄県に対して提言を行っていくのか、それとも伊佐地域だけの話か。沖縄県の普天間飛行場の跡地利用に活かしていくという大きな提言に繋がっていくのか。

(宋氏) これまでのまちづくり講座では「まちの将来像」について話してきたが、それだけでは将来像は実現しないので、今できることから少しずつ実践し可視化していくということが大事であるとなってきた。そうした中で今回の伊佐地区で行った取組が、将来的に普天間飛行場跡地利用に結びつく、今できるまちづくり実践活動になると良いと考えている。

Q. 学生との連携という話があったが、学生さんも「ボランティア」ではないことが大事なのかなと持った。若手の会では、参加者が年々減ってきている。地域のために何かをやるという時に、やる気だけでは難しいという気がしてきており、参加することでのメリットを高める方策というところでアドバイスがあれば伺いたい。

(宋氏) ポートランドでは、ネイバーフッドアソシエーションと呼ばれる自治会組織が95 作られ

ている。またこれらを束ねる7つの地域連合がある。日本の自治会とポートランドの自治会の違いは、日本では世帯ごとに入るが、ポートランドは1人1人誰でも入れるようになっている。自治会の活動内容としては、地域の土地利用や交通計画に対して意見を出すことができる権限を持っている。行政の計画を作るときには必ず自治会に情報を公表して自治会で検討した結果を反映させなければいけない。こうした検討プロセスを50年以上行ってきた。

ポートランドで住みやすさを調査した時に、家から徒歩20分圏域に自転車道路、歩道、公共交通、健康食料品店、公園、小学校、商業サービス施設等があるかどうかで各エリアの住みやすさを評価した。この結果をWalk score.comというサイトで「歩いて暮らせるエリアかどうか」を地図上にヒートマップで公開している。そして、これが不動産価値と結びついている。行政では、全ての評価項目を満たしている地域、満たされていない項目がある地域を明らかにし、満たされていない項目がある地域ではそこを満たしていく取組を行うように計画した。なお、この計画の存在を住民に知っているか聞いたところその認知度は7割程度であった。

地主に対して行政から「こういったところを悩んでいるから一緒に考えてもらえないか」という課題が与えられるとモチベーションにも繋がってくるのではないかと。行政と地主が伴走する関係性が大事である。東久留米市の事例を見ると、現役の方より定年された方が活動を牽引することも大事でありこれからも頑張ってもらいたい。

また、参加している人の達成感が大事だと思う。1年に1つずつでも良いから、1人1人の「できた、形になった」を積み重ねて何か達成したことを作っていくことが大事であると思う。

**Q. ポケットパークの隣の畑を作ったのは私である。なぜ今回、畑の写真を撮って紹介して下さったのか伺いたい。**

(宋氏) 非常に素晴らしい取組だと思った。隣にポケットパークがあるということがとても良いと思った。

あえて1つ提案させてもらえるのであれば、フェンスで少し入りづらい感じがしたので、椅子や木の柵等に変えて入りやすい雰囲気づくりをするともっと良くなるのではないかと考えた。

こうした取組1つ1つがまさに今回まちづくりにとって重要であるとお話させて頂いたことである。これからも引き続き取り組んでいってもらえると良いと思う。

**Q. 西普天間住宅地区の開発においても元からあった自然資源を残すという取組を行っていると聞いた。緑はただあれば良いのではなく、せっきく今あるものがあれば残していけると良いと思うが、その辺りについてご意見伺いたい。**

(宋氏) みどりはまちづくりにおいてとても大事である。みどりを将来どういうシーンで誰がどのように使うのか、そのためにどのようなみどりを作りたいのか、将来の景色を具体的に思い描くのが大事だと思う。



### 3) 今後の課題

#### 【取組み成果】

##### ●開催結果と開催方法について

- ・「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」をテーマとしたまちづくり講座を2回実施できた。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況が収まってきたことから、感染対策を行った上で会場参加ありでの開催と後日動画配信の併用型で開催できた。

##### ●合意形成・情報発信の取組について

- ・普天間飛行場の周辺市街地である伊佐地区において、市民・住民と共に公共空間の活用について具体的に検討し、その実施に向けてどのように進めていけば良いか先進事例から学ぶ機会をつくることができた。

#### 【今後の課題】

##### ●周知及び参加者について

- ・伊佐公民館を会場に実施し、会場周辺の住民の方を中心に参加して頂くことができたが、今後、学生や宜野湾市内全体からより多くの方に参加して頂けるよう周知を工夫する必要がある

##### ●今後の取組について

- ・まちづくり活動の実践に繋がるよう、庁内関連部署との連携や情報共有、講座の内容を踏まえて実践に向けた地域活動支援が望まれる

## 2-5. 有識者への意見聴取

取組み方針：合意形成活動の実施に関する提言・助言などをいただき、地権者等関係者の着実な合意形成活動に繋げていく。

### (1) 有識者への意見聴取

#### 1) 開催概要

昨年度から意見聴取の形を採用して有識者から合意形成活動に関する提言や助言をいただいております。今年度も同様の形で計2回実施しました。

なお、今年度は昨年度と同様、石原昌家氏（沖縄国際大学名誉教授）、上江洲純子氏（沖縄国際大学教授）の2名と、神谷大介氏（琉球大学准教授）を新たに加え、計3名の有識者から意見聴取を行った。

第1回では今年度の取組み内容と、若手の会及びNBミーティングの活動について意見をいただき、第2回では意向醸成に係る今後の取組みに向けた方向性について意見をいただきました。

## 2) 第1回実施概要及び議事要旨

### ○実施概要

①日 時 : 令和4年9月12日(月) 16時00分～18時00分

②会 場 : 宜野湾市役所別館3階建設部会議室

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授  
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 教授  
神谷 大介 琉球大学 准教授

#### 《事務局》

永山 拓朗 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長  
高良 夏美 宜野湾市基地政策部まち未来課  
石井、崎山(昭和株式会社)

④次 第 : 1. 令和4年度の取組みについて  
2. NBミーティングについて  
3. 若手の会について  
4. その他お気づきの点など

⑤配布資料 : ・令和4年度 第1回有識者への意見聴取 次第  
・資料①: 令和4年度の取組みについて  
・資料②: お伺いしたい事項

## ○意見概要

		(1) 令和4年度の取組みについて
神谷 (琉球大学准教授)	谷	1ページ目に記載されている「既存会員の人材育成」とは何を指しているか。
事務局	局	若手の会既存会員が跡地利用計画に対する知識を深め、跡地のまちづくりに対する機運を高めていければという思いがある。実際、跡地利用計画の内容は難しいため、一般の地権者は理解が追いつかない部分もある。そのため地権者との意見交換会の場において、若手の会が内容をかみ砕いて説明していただくことができれば望ましいと考えている。
神谷 (琉球大学准教授)	谷	2ページ目のフローに記載されている「関心の向上」について、対象は地権者及び市民を含め、現在関心のある方に対してさらなる関心の向上を目指すイメージか、あるいは無関心な方に対して関心をもってもらうイメージか。
事務局	局	無関心の方に関心を持っていただくことから始めるイメージである。
		(2) NBミーティングについて
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	原	まず気になるのは、新規加入者の偏った意見で定例会が非常に困った状態になっているという話であるが、具体的にどういった内容かお聞かせいただきたい。
事務局	局	昨年度の第2回意見聴取の際に少し相談させていただいた件である。環境問題に対して興味のある方がNBミーティングに加入され、定例会の運営に支障がでている。 そのときいただいた意見としては、会則の変更が方法としてあるのではないか、また、会のメンバーとしてふさわしくない方に対しては退会いただくことがよいのではないかという内容であった。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	洲	組織再編という点について、NBミーティング発足の本来の目的からすれば、いずれは自立した組織として羽ばたいていくことを目指していると思う。現行の会則内容は、独立した組織としての内容にはなっていないと見受けられる。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	洲	会則変更案について、入退会と除名が追加されている。組織という観点からいえば、総会なり会の総意を判断するための会議体の設置、審議事項が記載されていない。 会の独立性の話でいえば、体外的な独立性と対内的な独立性、さらに第三者的な独立性というものが備わらないと独立した組織体とは言えない。

会則もない中では除名が難しいのではないかと以前申し上げたが、その部分のみ追加するという事は、そもそも組織として独立ができていない中で独立した規定を定めることとなり、現状のNBミーティングがいきなり飛躍して独立した組織体になるというように見える。

そのため、現行組織を一旦活動停止にしてもよいのではないかと思った。組織見直しのために会則変更するよりは、現行組織を今後どうしていくか、今回をいい機会として一旦立ち止まる必要が出てきたということを感じた。そうすると、将来的に大きく独立した組織として形成させていくためには、まず何をしないといけないのかということを考える必要が出てくる。

上 江 洲 NBミーティングの会長、副会長は、会の活動そのものについてどう考えているのか。  
(沖縄国際大学教授)

事務局 会長には会の活動に関しては賛同いただいている。副会長は不在である。

上 江 洲 機運が高まり独立する必要性が出てきたため新組織を立ち上げるわけではない。会則の特に除名の部分で「本会の判断で」とあるが、具体的な手続きがどこにも書かれていない。

「本会の判断」をどこで行うのか、なぜそこまで踏み込んで定めないといけないのか、という話になってくるため、会則の変更部分及び新組織の立上げについても今回は賛成できないと考えている。むしろ一旦立ち止まり、事務局（会長も含む）が、今後のNBMの活動の方向性を検討する期間として今年度を充ててはどうか。

上 江 洲 定例会に不参加の方は多いが30名程度の会員がいることは事実であるため、その中でこれまでNBミーティングの活動に対して比較的賛同し活動いただいていた方が活動停止となると、そのまま会の活動からフェードアウトしていく懸念がある。

「新規加入促進」や「活動再開・継続するために留意すべきこと」とセットになるが、NBミーティングは独立した団体として跡地利用計画に対する活動を進めていくにはまだ荷が重いという状況であれば宜野湾市が実施している市民向け講座など、市民協働課が学生とタッグを組んで市民向け講座を幅広く進められているため、NBミーティングがこれまで積み上げてきた成果をまずそれらの講座で発信してはどうか。

現在残っているメンバーは、むしろそういった活動に参画する、あるいはそのような活動に周知する機会を選べるような取組ができるかどうか。課を超えた横断的な取組のため、課同士で調整いただく必要はあるが、少なくとも活動停止を提案するにあたり、現メンバーが宙に浮くことのないようにし、新規メンバー掘り起こしというよりは現メンバーの活動の場として、現在の市の取組を活用させていただく機会があれば次に繋げることができるのではと考えている。



神谷 (琉球大学准教授)	急な会則変更の話であり、会員を締め出すような形の案になっているため、この案で確定することはよくないと考える。
神谷 (琉球大学准教授)	先進地視察会の候補地として柏の葉と松山の2種類のアーバンデザインセンターが記載されている。柏の葉はデベロッパーと東大が連携して取り組んでファンドは完全にデベロッパーで進めている。一方、松山は松山市が全面バックアップしながら、連携を取りながらであるが愛媛大学が特任で行政のまちづくり支援をアカデミックにサポートする組織としてのUDC(公民学連携組織)である。二十数組織あるUDCの中で、非常に特徴的な2組織を提示されている。この2つを視察先として選定した理由としては、柏の葉においては参画するのは住民というよりは企業体や商店街などの方々であり、松山の場合は住民を巻き込むにあたりどうアカデミックに進めていくかということであると考えている。NBミーティングの進む方向性が私の中で整理できてないが、どういう方向に進んでいこうとされているのか。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	<p>返還時に、跡地利用にすぐに着手できるような状況になっていないと、過去の事例においてもそうであったように跡地利用計画の実現まで時間を要することとなる。計画の中に市民の意見をどうやって取り入れるのかというときに、まず市民の力をつけ、関心ある方々の機運を高めていく必要があると考え、勉強会からスタートし、それが定例化して現在まで継続してきた状態である。</p> <p>当初は充て職で、市内各種団体の方から代表となる方を選出していたが、始まった。その後、関心が低下していく中で公募により様々な方に加入していただく形になってきた。しかし返還までの期間がここまで長くなると、どうしても会が低迷するため、会の活性化のためにはどういった取組みが望ましいかを議論してきていた。しかし昨年度、跡地利用のことでなく、現在の基地問題について議論しようという方が出てきて、会として困った状態に置かれてしまったということが今回の議題につながっている。</p> <p>様々な取組を提案するために、少なくとも今回の先進地視察では公民学が連携したまちづくりについて勉強するということであると理解した。過去においても、視察に参加された方はある程度関心を持って、その後も継続して会の活動に参画されていたのであるが、昨年度に大分雰囲気が変わってしまった。</p>
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	<p>基地にはP F A Sなど様々な環境問題があり、そこを抜きにして跡地利用を考えても意味がないという意識で発言されている点に問題がある。</p> <p>我々は軍用地の環境問題などを全て解決したという前提で跡地利用計画の検討を進めてきた。基地の危険性や各種環境汚染問題が存在していることは全員知っている。それが解決したものという前提で、当初から継続して</p>

	議論している。そこが崩れてしまうと、これまでの我々の取組みが意味をなさないものになってしまうため、共通認識として関係者全員が持つておく必要がある。
事務局	会の目的や活動に賛同されている方が宙に浮かないよう、既存の市主催の各種取組に入っていけばよいのではないかという話が先ほどあったが、それはNBミーティングという組織としてではなく、個人として入るという認識でよいか。NBミーティングの取組について情報発信をする場合、組織として発信する必要がある。その場合現状では難しい。どのようなスタンスで既存メンバーに伝えていけばよいか。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	個人としてやっていただければよいと考えている。 NBミーティングの発信について、市(まち未来課)がNBミーティングの事務局であるため、まち未来課が市民協働課とタッグを組めるものがあるかどうかという話になる。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	私はNBミーティングの活動停止を提案しているので、停止をすることで会としての活動はできないが、事務局は存続することになる。 市民協働課が開催している講座は、終了すると卒業した方達が自発的に会を組織したり、活動を継続する例が紹介されていたりする。 市民協働課としてもまちづくり人材の育成を目指した取組を行っていると考えられるため、事務局であるまち未来課がこれまでの活動実績を1つのトピックとして市民協働課とタッグを組み、できることがあると思う。そういった意味で、事務局として横断的に市民協働課とまずは情報交換を行ってはどうか。 会員個人に対しては、今は会の活動が停止するが強制退会ではなく、再始動するまで各自興味のある事項にコミットし、市としての各種講座の取組み紹介することもできると考えている。
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	停止となった場合、これまで頑張ってこられた方達のエネルギーが無駄になるという気持ちが私の中にはある。そのため停止という形ではなく、過去の活動の総点検を行う期間としてはどうか。 現在の基地問題を考えようということは、それはそれで根本的な話をしていと思うので、当然自身でも考えて行動するはずである。こちらはこちらで、これまで取り組んできた内容をまとめてはどうか。 停止となった場合、NBミーティングメンバーのモチベーションが一気に下がる懸念がある。
神谷 (琉球大学准教授)	一般的に、住民が関わるまちづくりには具体性がある。目に見える変化、その成果や影響を感じながら検討を進めていく。だから会として成長していくこともある。そういった具体的なものが一切見えない中で、よく20年も続いているというのが正直な感想である。それで低迷しているのは、

		それはそうであろうと正直感じる。 これまで続けてきた活動を失くすということに対して、もったいないという思いは分かる。返還後のまちづくりを皆で考えていくことは重要であり、公共の福祉という観点からも正しい。ただ、税金を活用して活動するため、活動の評価は考慮する必要があると考える。 跡地利用計画の内容に関して、例えば鉄軌道の計画ラインについて宜野湾市はラインを確定しているか。
事務局		していない。
神谷 (琉球大学准教授)		各市町村、当然確定していてもまだ公表はしないが、ある程度のラインを念頭に置きながら都市計画を検討している。鉄軌道が実現した際にはこの辺りに受け入れたいと考えながら道路の拡幅や公園として残すなど進めている。恐らくそれが宜野湾市には、まだない。 その内容を跡地利用計画に盛り込むのか盛り込まないのか、そういう部分があってもよいのではと思う。そのことを市として考える期間として暫くNBミーティングを休止する形でもよいかもしれない。
事務局		NBミーティングは毎年テーマを設けて検討を進めるが、現状は掲げたテーマに対して成果を生み出しきれない状態のため、一度立ち止まって過去に勉強したことを総括する場を設けることはよいかもしれないと思った。
事務局		税金の話はおっしゃる通りと感じる部分もある。会則の作成や、NBミーティングの継続について、事務局で検討したい。
		(3) 若手の会について
石原 (沖縄国際大学名誉教授)		第3条として「会員」と記載されているが、「会員資格」に修正した方がよい。 第4条に「行政等からの推薦状を事務局に提出するものとする」とあるが、推薦状というのはいかがなものか。推薦する場合の基準が必要と考える。あまりなじまないと感じる。
事務局		当初、地主会の各字の役員からの推薦を受けてメンバーが選出され、若手の会第1期メンバーとなった経緯があるため、推薦状と記載した。
石原 (沖縄国際大学名誉教授)		推薦状ではなく、推薦による程度でよいと考える。また、「正当な理由がない限り入会を認める」という部分も違和感がある。文言自体が引っかかるため「審議を経て入会を認めるものとする」でよいのではないか。
上江洲 (沖縄国際大学教授)		特定の人をイメージして文面を作成しているため違和感がある。一般的に通用する表現に修正する必要がある。
事務局		会則を設けること自体について、どう考えるか。

石 原 (沖縄国際大学名誉教授)	会則はあったほうがいい。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	<p>会則という主旨の観点から申し上げると、若手の会に内容を検討させたほうがよいと考える。</p> <p>会則を定める際には、会として成立するために活動目的と内容、意思決定機関、審議事項、議事、審議成立の条件などが記載される。</p> <p>税金の問題があるため、第三者的独立性に関する事項が規定には入らないかもしれないが、基本的には会則として必要な事項があるため、それをモデルとして提案し、若手の会に検討してもらう方が主旨と整合しているのではないと思う。当然事務局と相談しながらとなるが、少なくとも会則については何のための組織なのかということも含めて考えてもらう必要がある。</p> <p>また、以前若手の会は地主会との関係性をどうするか検討した経緯があったはずであるが、地主会の下部組織になるという話があるならば地主会の了承を得て、地主会との関係性も踏まえて会則を作成する必要がある。</p> <p>今回は会則について検討するよい機会であり、若手の会としても跡地利用計画の内容に対して発信するにあたって対外的に説明がつかないという部分があるということを感じ、当事者意識を持つよいきっかけであると考え。</p> <p>本来、税金を投入していることから会則を設けておく必要があるのにそれがないという事自体がおかしいので、会則作成の検討を行うと説明できるものと考えている。当初が勉強会からスタートしているために会則がなく、遅ればせながら作成するということである。</p>
事 務 局	地主会の下部組織になるかどうかという話については方向性が決まってない。今後、地主会と若手の会で詰める必要がある。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	会を維持運営するにあたって、後は組織として年に1回は総会を開催して事業計画を立案し、本当に少しずつ独立した組織に向けた準備のために、せめて審議機関を設けた方が望ましい。会長と副会長が存在するため、若手の会はそれができないのではないかと考えている。会則モデルを提供することは必要であり、文言の表現に関する課題など事務局と相談しながら検討していければよい。
神 谷 (琉球大学准教授)	<p>会則がないこと自体がおかしいと考えているため、これから作成すればよい。</p> <p>会則の目的で、地権者「側」と表現されているため、若手の会自身が作成しているのではなく行政が作成しているように見える。その辺りも考えて作成いただけるとよい。</p>
事 務 局	会則は作成する方向で進めていきたい。

上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	地主との共通意見テーマについて、地主の方はかなり高齢であるため、興味を持つテーマで若手の会がコミットできるものがあればよいが。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	若手の会定例会の持ち方について、定例会はハイブリッドで続けていく方が望ましい。通常の会はオンラインでもあまり活動自体に支障がない。ただ、最終の報告会などは対面で行うことが望ましく、いつ頃対面形式でこういった内容を行うのか、目的が設定されていると参加率の向上につながると考える。
事 務 局	地主が興味を持つテーマについて、以前は地主会が跡地利用特措法の改定に伴う内容や土地の先行取得の話などの説明会を開催されていた。自身の利益に直結するものならば興味を惹くが、周辺市街地の連携や跡地利用計画内容については漠然としており、イメージしづらい点がある。今年度、地権者意見交換会を開催するにあたり、効果的な方法としてこういったことが考えられそうか。
神 谷 (琉球大学准教授)	地主会は、他の返還地との横のつながりはあるのか。
事 務 局	他市町村の地主会のつながりはあると考えている。
神 谷 (琉球大学准教授)	実際に返還されていくプロセスの中で、我々はこういう事が困った、こうしておけばよかったというような経験談は共有されているのか。行政的な課題を話しても恐らく関心がない。地権者側からの課題や、先にこういう事を知っておきたかったという話はあるのではないかと思った。 行政として決定した事項や、こうかもしれないという事も行政としては恐らく言えない。しかし地権者ならば、この時期にはこういう事があってというように、ある意味責任のない立場同士で話してもらおうことがあってもよいのではと思った。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	過去、若手の会は他の地権者組織に、返還時にどういう問題があったかということ聞きに行ったことがある。そういう話題は地主会も関心を持つ。その要点を、分かりやすく若手の会が地主会に説明してもよいのではないか。現在、跡地利用計画に対する関心が薄れている状態ではあるので、むしろ地主会の機運を高めることができるのではないか。 地主として、どういう形で取り組んで進めていったかということは興味深い話であったと記憶しているので、それが共有できれば一緒に考える機会になるのではと、今のお話を伺って感じた。
事 務 局	例えば、今年のはごろも祭りは地主会も参加できて連携できると考えていたが、コロナで中止となったので残念である。 また、若手の会と地主会の中での情報共有、若手の会からの発信といった取り組みができるかどうかは、若手の会に対して伺ってみてもよいのではと



		感じた。
		(4) その他お気づきの点など
石原	原	若手の会定例会の持ち方について。ただ集まって意見を出しあうだけではなく、発表者を決めて時間を定め、発表させて議論する方式を行ってはどうか。あるいは翌月の報告者を会終了時に指名すれば、もう少し緊張して前準備を行うものとする。
		そして、議論した結果は話して終わりではなく、結果を上げていく先がないと会のモチベーションが下がる。上げていく先を若手の会で検討してみてもどうか。
事務局	局	もう少し若手の会としての意見がまとまり、それを他の地主に伝え、広がっていけば地主の声として発信できるのかなと思っている。そのためにも、若手の会の総会を年に1回設けて議題として決議してもよいのではと思った。
		次に、定例会の発表者を決めて報告するという話であるが、確か新型コロナウイルスの影響でその取組みがなくなったと記憶している。昔は1人あたりの時間を決めて持ち回りで進めていたが、オンライン会議併用になった時点で事務局主導による進行となり、それが現在も続いている。
事務局	局	パネル展の会場を変更して開催したいと考えているが、会場候補の1つとして、大学の学園祭を会場としてはどうかと考えている。沖縄国際大学の学園祭はいつ頃の開催予定か。
上江洲	洲	学園祭はコロナでかなり制限がかかっており、難しい。学園祭とは別日での開催がよい。フロアでパネル展は開催されている。
事務局	局	パネル展の開催自体は可能という認識でよいか。
上江洲	洲	はい。相談などは私が掛けあう。
石原	原	私宛にたまたま宜野湾市の平和大使の講演依頼があったため、(平和大使について)色々調べるきっかけになったことがある。そのため、YouTubeの再生回数も低迷しているなど課題は色々あるが、動機づけを工夫して発信すれば、そこにたどり着いてくれるのではないかと感じた。

### 3) 第2回実施概要及び議事要旨

#### ○実施概要

①日 時 : 令和5年2月20日(月) 18時00分～19時30分

②会 場 : 宜野湾市役所別館1階職員厚生室

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授  
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 教授  
神谷 大介 琉球大学 准教授

#### 《事務局》

又吉 直広 宜野湾市基地政策部まち未来課 次長兼課長  
永山 拓朗 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長  
高良 夏美 宜野湾市基地政策部まち未来課  
石井、崎山(昭和株式会社)

④次 第 : 1. 令和4年度活動報告  
2. 意向醸成に係る今後の取組みに向けて

⑤配布資料 : ・令和4年度第2回有識者への意見聴取次第  
・資料①: 令和4年度活動報告  
・資料②: 意向醸成に係る今後の取組みに向けて(お伺いしたい事項)  
・資料③: 若手の会 会則案  
・参考①: 有識者への意見聴取(第1回)議事要旨  
・参考②: 次年度の取組みについて

## ○意見概要

	(1) 市民に向けた今後の取組みについて
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	若い世代を対象に、他の事例を具体的に示しヒントにするとよい。例えば、大規模公園を考えるとときに、日本・海外各地のビオトープの事例を紹介するとイメージしやすいのではないか。戦前の宜野湾の特徴(大山ターブックウなど)をヒントにしてもいい。事例をたくさん集めることが大切。
事務局	若い世代の取り込み方は、どのような方法があるのかご教示いただきたい。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	子育て世代に魅力あるまちは、宜野湾市全体のテーマでもあり、基地跡地だけを考えずに、周辺市街地を含めて宜野湾市全体を魅力あるまちにしていくためのワークショップは出発点としてよいのではないかと。 子どもに関すること、身近な困りごとからまちづくりを考えると、子育て世代や女性の関心が集まりやすい。商工会は、産業・経済面の活性化をテーマにすると考えやすい。老人クラブの意見は住みやすいまちづくりの視点。青年会のリーダー研修のメニューに入れるのは、いろいろな年代がいるので、照準を合わせてテーマを決める必要がある。関心が持続するテーマを取り上げることが大切。 NB ミーティングの開始のタイミングは、一つのテーマを掘り下げたり、プロジェクトを立ち上げるときに再開すると NB が機能するのではないかと。
神谷 (琉球大学准教授)	宜野湾市にまちづくりのNPOは存在するのか。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	外国人の支援組織で活発な団体はあるが、まちづくりに特化した団体は存在しない。NBミーティングがそのような団体に成長できれば良いと期待していた。
神谷 (琉球大学准教授)	柏の葉アーバンデザインセンターは特殊であり企業色が強いが、他のアーバンデザインセンターはもっと住民寄りの組織である。大学の学生のアイデアでまちを活性化する取組としては、基地跡地をどういったまちにするかという話ではなく、基地跡地というスペースをどう活用しようかというように、地元の課題から関心をもってもらっていただく形のスタートが良い。 普天間飛行場に特化せず、県内各地で基地跡地のコンペで賞を受賞された県外の人からアドバイスをいただくと良い。これまで県内で考えてこなかった視点で、県外の方から意見をいただくと可能性を広げることに有効と考える。また、その場合は講演会ではなく普通に話を聞ける形が良い。



事務局	県内の人では同じ考えに至りがちのため、県外が良いということか。
神谷 (琉球大学准教授)	沖縄県出身で県外に生活している方が理想であるが、県外からだからこそ言えることがある。
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	資料①のP4の意見に「学生や会社員はコワーキングスペースを求めているのではないか」、「MICEも考えてほしい」という意見が出ている。具体的なモデルを提示したり、事例を提供してはどうか。
事務局	いきなり跡地の活用をテーマにせず、自分の身の回りの関心事を聞く方が参加率は高いと思うが、中々継続しないことが課題である。
神谷 (琉球大学准教授)	アーバンデザインセンターのように住民や大学生が中心となる組織が主催する方が良い。宜野湾市は会を主催せずに、その組織を支援するほうにまわる方が望ましく、そうすることで企業も参画できる。
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	宜野湾市は、組織にヒントを与えていく立ち位置であれば良い。
事務局	まちづくり講座の講師を務めた山口大学の宋先生も、学生を主体にすることが継続性の鍵であるという意見であった。
神谷 (琉球大学准教授)	学生主体で会を開催し、アイデアを出して終わりにならないように、必ず何個かは実践することが大切である。失敗しても構わない。
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	学生を演習に連れていくと、想像以上に動く。いつの時代の学生も潜在的な能力は変わらずにすごくある。今の学生も十分期待できる。
事務局	ポイントは「実践が伴うことが大事」、「企画から運営まで任せる」、「学生の潜在力や大学との取組」、「行政としてどのような支援をするか」のヒントをいただいた。改めて来年ご相談させていただきたい。
	(2) 若手の会の会則内容について
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	地主会が高齢化すれば、親から土地を引き継ぐ訳である。いずれ若手の会が地主会会員になることを、若手の会はどのように考えているのか。
事務局	現状として、若手の会にも入り地主会の役員になっている方が2名程度いらっしゃる。若手の会と地主会を一緒にしたくないという思いもあると考えられる。息子を若手の会メンバーに入れていなかったりする。少人数で会則の議論をしても実にならないという意見もある。大事なのは、会則より意識改革で人数を増やすことと考えているようである。 ボランティア組織で会則もなく20年経過したため、いきなり会則を提示すると身構えている状態である。親から引き継いで入会したり、会員としての世代交代については進んでいない。

上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	会則の必要性を自発的に認識していないことが問題である。事務局をまち未来課に置くことも本来は不要である。ボランティア組織のままでも会則は必要である。定例会は勉強会として位置づけ、議決が必要な議事がある場合に会長権限で総会を招集し、委任状など議決できる仕組みとして会則を設置すれば良いのではないかと。若手の会の活動は、調査研究、広報啓発活動を主として定例会を開催していることを謳えば、仰々しくならないのではないかと。
事 務 局	会長の権限で議決となると会長に責任が生じ、それが重荷となるのではないかと。議決が必要な場合は、敢えてまち未来課と若手の会役員で相談して決定する方法が良いのではないかと。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	事前に市と相談することは良いかもしれないが、若手の会は自らの手で会を動かしていく意識を持つべきである。会長は行政の委員会に代表で出ているため責任は生じるが、責任を会長に負わせるというよりは会員の総意で決定した事項と考えれば良い。
事 務 局	ボランティア組織という認識も変えていく必要があると考えている。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	ボランティア組織としても会則は必要である。会則作成が時期尚早で無理という話ならば、何の組織か分からなくなってしまう。
神 谷 (琉球大学准教授)	まち未来課に事務局を設置するという文章を、こちらから提示するのは良くない。若手の会から依頼されたという形ならば良い。 会則も存在しない会の代表を行政の委員会に設置していることが良くない。それを社会的な組織として行政が認めてはいけない。若手の会として、会則のたたき台を提示してもらってから話を進めるのが筋である。それが難しい場合、行政としては若手の会を組織として認めることが難しくなっているため自分達で会則、目的などを作成していただけないかというお願いをするべきである。
石 原 (沖縄国際大学名誉教授)	理解してもらえるように伝え、認識を改めさせるとよい。
事 務 局	実際には自身の実になる活動のため、ボランティアとは異なる。若手の会の中で揉んでいただくことが理想的であるが、1条、2条だけでもまず案として提示していただくと良い。
事 務 局	本日の会則案は、チームまきほ21よりも厳しい会則のように見える。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	定例会を招集しているから厳しく見える。

事務局	第3条について、委員の構成については、地主会が「委嘱する」では抵抗感があるため「推薦することができる」にしているが、これで良いかどうか疑問がある。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	「推薦することができる」では、実際に構成員になる決定をどこが行い、いつ構成員になるのか見えない。会長・副会長の定めなど、会則に最低限盛り込むべきことを若手の会から案として提示してもらう方が良い。
神谷 (琉球大学准教授)	チームまきほ21の要綱は平成24年に設置されているが、当時の牧港補給地区の返還タイミングはどうだったか。
事務局	返還時期は、令和6年度またはその後と定められている。
事務局	嘉手納以南の返還の話がきっかけとなり設立されており、若手の会も時期は同じである。会の設立に建設コンサルタントが関わっていたかどうかは分からない。
神谷 (琉球大学准教授)	若手の会の方が、設立は古いのか。
事務局	チームまきほ21は、若手の会を参考に設立されている。
神谷 (琉球大学准教授)	牧港補給地区の返還は動いている感があるが、普天間飛行場は注目を浴びる割に動いている感がないまま20年経過しており、つらい状況である。
事務局	会自体で会則を考え主体的に運営するために、会則の内容について話し合う時間を定例会で持っても良いと考える。行政がまち歩きなどを作り込んでも継続性がないという話が、この会則作成にも通じると考える。
事務局	若手の会でも、会員を増やすために名称変更をしてはどうかという意見が出ている。会則と名称変更をセットとして、全会員の意向をアンケートで確認するなど会則を設置する機運を高める必要がある。
事務局	会則がないと困るという発想を持ってもらう必要がある。
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	複数の団体の会則を示して、若手の会でも会則があつて当然と認識させてはどうか。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	若手の会への助成金は、どのように管理しているのか。
事務局	行政からではなく、地主会からの助成金である。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	地主会に報告はされているのか。



事務局	報告義務もなく、行政は関わっていない。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	議決が必要となる総会は、会長選出、次期計画策定などであり、年に2回程度開催するのが一般的であるが、毎月の定例会は議決不要の活動である。定例会を組織体としての運営に備えるよう勧めてはどうか。
事務局	若手の会の会則については、次年度以降も継続して話をしていきたい。
	(3) 若手の会の次年度取組について
神谷 (琉球大学准教授)	本日提案いただいている取組は、若手の会限定ではなく、宜野湾市全体のまちづくりの話として、市民と一緒に参加する枠組みの方が良いと考える。市民と一緒にバスに乗り、まち歩きをし、若手の会が20年間学んできたことを市民に伝え、市民の意見を伺う方が自然である。会則の件について、行政からは金銭のやり取りはないと言いながら、会則もない若手の会に行政は補助金をかけて事業を進めている状況である。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	座学は若手の会が提供する側になると、自分たちの学んできたことのアウトプットにつながる。
神谷 (琉球大学准教授)	大学生との交流は良いという意見があったため、大学生に向けて若手の会から説明を行えば良いのではないか。
事務局	その場合、大学の窓口はどこになるのか。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	個別相談の方が良いと考える。
神谷 (琉球大学准教授)	ゼミに声をかける以外には、地域連携推進機構で円卓会議のような取組を実施している場に参加したい学生が参加する方法もあるが、そのためには準備期間を要する。
事務局	その準備期間はどの程度か。
神谷 (琉球大学准教授)	予定は半期ごとに立てる。R5年度前期分は、既に話が出ている必要があるため、これから話をするならばR5年度後期になる。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	後期には、急げば間に合うかもしれない。
神谷 (琉球大学准教授)	まち歩き関係は世話役が必要となるため、先生を一本釣りしないと厳しいと考える。座学については、学生は参加者となるため研究室に声掛けすると偏りが生じる。地域連携推進機構や大学との包括連携協定を締結してい

		るため、学生と話し合いの場をアレンジしていただけないかと依頼すれば良い。各大学をミックスする方が良い。
上	江 洲	広報で募集するとなかなか集まらない。
	(沖縄国際大学教授)	
事	務 局	小さな、できる部分から始めて繋げていきたいと考えている。
事	務 局	若手の会としても、学生の意見は聞いてみたいという話であるため、今後検討していきたい。

#### 4) 取組み成果と今後の課題

##### 【取組み成果】

##### ●次年度の取組みの方向性について

以下の内容に関する取組みの方向性や考え方について意見を伺う事ができ、若手の会及びNBミーティングへのフィードバックを行った。

- ・若手の会の会則に関する見解
- ・NBミーティングの活動の方向性
- ・市内各種団体に向けた意向醸成活動の進め方

##### 【今後の課題】

##### ●継続した議論の必要性

- ・意向醸成活動を進めるにあたって、今後も継続して意見聴取を実施し、方向性、手法等に関する検討を進めていく必要がある。